

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21320101

研究課題名（和文）

EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究

研究課題名（英文）

Comprehensive Research on Foreign Language Education Policies and the Evaluation Systems for Language Proficiency in Higher Education in the EU and Japan: 2009-2011.

研究代表者

富盛 伸夫 (TOMIMORI NOBUO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：50122643

研究成果の概要（和文）：

当初計画に基づき研究分担者・協力が者が、欧米諸国の高等教育における外国語能力評価システムと具体的実践を19機関において調査・収集した最新の情報を検証し、我が国の外国語能力評価方法との対照研究を行った。成果は東京外国語大学語学研究所との共催による合計11回の研究集会や、国際シンポジウム等で発表した他、研究分担者・協力は各自の関係する学会・研究会等で発表し論文として提出した。また、本科研のWebサイトでの発信や2012年3月に報告集の刊行によって成果を公開した。

研究成果の概要（英文）：

The researchers and collaborators of the project concerned collected and verified current information from investigations into the foreign language proficiency evaluation systems and the effects of their application in 19 different higher-educational institutions, and contrastive studies were held comparing the proficiency evaluation methods used at higher-educational institutions in Japan. The results were announced at 11 different academic meetings and international symposiums, and the researchers and collaborators each presented and submitted scientific articles at the society or academic group they respectively belong to. The results were also uploaded to this project's website, and published as a report in March 2012.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2010年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2011年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
年度	0	0	0
年度	0	0	0
総計	13,200,000	3,960,000	17,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：ボローニャ・プロセス、高等教育、EU、外国語教育政策、言語学能力評価、外国語能力検定、多国籍、国際研究者交流

## 1. 研究開始当初の背景：

- (1) 地球規模での国際化が急速に進むなかで、外国語教育方法と政策の見直しは世界各地で進められている。EUでは、高等教育の抜本的改革が「ボローニャ・プロセス」の枠組みの中で強力に教育施策として推進され、EUの知的伝承・再生産を担う高等教育が急速かつ質的に変容しつつある。とりわけ、学生のモビリティに対応した外国語教育の改善は不可避的な課題であり、言語能力評価の透明性と共通性を掲げたCEFRの設定と実践はEUの中等・高等教育にとっても、さらに言語・文化的多様性の中での統合というEUの理念にとっても成否の核心といえる。現実には、多言語・多文化社会であるEUの理念的基盤といえる複数言語主義と実際上の英語優先的施策との矛盾・乖離は看過できない一方で、CEFRの高等教育機関における浸透度・実効性の検証は、我が国の外国語教育方法への適用可能性の検討へと関連し、初等教育から高等教育まで、外国語教育の理念・目標・教育プログラム自体を問い直し、より有効な評価システムの確立に向けた方策の研究が必須となっていた。
- (2) 本研究の代表者および分担者は、まず各々が研究対象とする言語の専門的研究者であると同時に、大学で外国語教育の現場に従事している者であり、日本の大学における外国語教育には改善の余地のあることを痛感している。しかしながら、我が国においては現在まで、言語教育改善への制度的取組は遅れていると言わざるを得ない。この基礎研究の必要性が共通認識となり、本プロジェクトの形成動機となった。
- (3) 本研究テーマと関連して、本研究の代表者および分担者の多くが会員である「外国語教育学会」においては、数度にわたり大会シンポジウムなどで外国語能力評価法や言語能力検定に関する企画を催し、本研究代表者富盛をはじめ多くの分担者が積極的に研究実績をあげてきた。
- (4) この成果をふまえ、2006年度より3年間、文部科学省科学研究費補助金課題研究「拡大EU諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」を組織・推進し、13名の共同研究者・研究協力者が対象国において言語教育政策とEUの実践しつつある外国語能力評価基準共通参照枠組み（CEFR）の実践・実効性に関する研究基盤を構築していた。本研究課題は、この先行科学研究を継承し、さら

にEUを中心とする高等教育レベルでの外国語教育制度・能力評価システムと、日本のそれとの対照研究を行うことも視野に入れたものである。

- (5) また、本研究の海外協力機関として、東京外国語大学が提唱し2007年に結成した「アジア・アフリカ研究教育コンソーシアム」（CAAS）の枠組みを利用し、イギリス・ロンドン大学のSOAS、フランス・国立東洋言語文化学院（INALCO）、オランダ・ライデン大学、アメリカ合衆国・コロムビア大学、韓国・韓国外国語大学等と国際的研究連携を築くことができ、本研究課題の遂行に極めて有意義であった。

## 2. 研究の目的

- (1) 本研究の重点項目として、第1に、ボローニャ・プロセスにより高等教育の変革が進行しつつあるEU諸国の外国語教育政策、特に、高等教育における言語能力評価システムと大学等での具体的実践を調査・検証しつつ、我が国の高等教育における外国語能力評価方法の実態調査をもとに対照研究をすることを目標とした。
- (2) 第2に、日本の外国語能力検定試験の到達度評価基準の問題点を検証することにより、日本の外国語能力検定試験の到達度評価基準に関する通言語的共通性と透明性の検証をめざした。
- (3) EUの外国語教育政策の研究から日本の外国語教育政策への寄与へと反映し、日本における外国語教育の改善へとつなげるような目標をもった。

## 3. 研究の方法

上記の目的遂行のために3つの班を組織して研究を分担した。

- (1) EU諸国の高等教育機関における外国語教育制度の変革の動向調査と情報収集：（A班）  
上記国際連携研究の枠組みCAAS参加大学であるロンドン大学SOAS、ライデン大学文学部、フランス国立東洋言語文化学院INALCO等を中心に現地調査に分担者を派遣した。この調査結果を、研究集会や国内外の学会で成果発表を行い共有した。
- (2) EU諸国における第1外国語教育・第2外国語の能力評価基準と測定方法に関する最新動向調査：（B班）  
EUの標榜する複数言語主義の原則とは逆の方向が、高等教育機関での教育・研究の現場

では生じている。ボローニャ・プロセスが徹底すればするほど、非英語圏でもBachelor-Master体制の導入により授業での使用言語としての英語が第1言語の地位を多くの加盟国で占める傾向が強まっている。本研究計画では、上記国際連携研究CAAS参加大学、およびイギリス、フランス、スペイン、ロシア、ドイツ、カナダ、加えてベトナム他の高等教育機関に上記研究計画に沿って、現地調査に分担者を派遣カナダ他の大学での現地調査により、Webや二次資料の情報では得られない信頼度の高い情報が入手できた。

(3) 日本の外国語能力検定試験の到達度評価基準に関する通言語的共通性と透明性の検証 (C班) および海外の言語能力評価システムとの対照研究 (D班)

上記研究計画で得られた、EU諸国の高等教育機関における外国語教育制度および外国語の能力評価基準と測定方法に関する新たな情報を分析し、成果を主催・共催の形で国内外の学会、シンポジウム等において、研究論文や研究発表により各分担者の専門分野で公開する方法をとった。これにより日本の外国語教育制度の改善に貢献しうるデータの共有と、高校・大学等での外国語教育方法、評価システムについて新たな知見を提供することができている。

#### 4. 研究成果

(1) 本研究は成果の一環として、EUの高等教育機関における外国語教育および能力評価法の実効性を検証することにより、研究会・講演会などを催して意見交換を行い、日本語教育の改善に貢献できる可能性を開いた。日本での言語教育が抱えている問題に対してその改善に寄与しうるようにつとめた。

(2) 国際研究連携にも主力をおき国際研究連携組織CAASとの協力により、成果発表のための国際研究集会を企画し開催に努力した。特に、2009年より東京外国語大学に創設された「世界言語社会教育センター」(WoLSEC)のセンター長として本研究代表者富盛は、東京外国語大学外国語学部における言語教育カリキュラムの構造化などの改革、GPA導入にむけた準備的研究、成績の厳正化を可能にする方策の研究などをテーマとし、学内外の研究者を招いて本科研との共催で研修会を開催してきた。2011年3月には国際シンポジウム「高等教育における外国語教育の新たな展望 - CEFRの応用可能性をめぐって -」を本科研と共同で開催し、欧米及びアジア諸国から13名の言語教育

学分野での指導的研究者を上記CAAS加盟大学から招聘して貴重な研究交流の成果を得た。

(3) 本研究の研究成果の一部は、独自のWebサイトを立ち上げることにより、平成22年度から成果を公開し始めた。最終年度2012年3月には課題のテーマに関する本報告書の刊行を行い、同時にWebでの発信を行った。

(4) しかしながら、本研究は新たな問題提起を残している。EUにおいても、当初よりアラビア語、中国語、日本語等、非印欧語へのCEFRの適用可能性の研究はされているものの、その困難さは、文字体系・音声・文法の隔たり、そして文化的ギャップのために、通言語的測定尺度は確立されていない。ここにこそ、日本やアジア諸国の当事者が研究活動を焦点化し先鋭化して、新たな国際的な共通枠組みを開発・提案する可能性を持っている。

(5) CEFR研究者とアジア諸語の言語教育者が協働すれば、多様な類型の言語に対応した、より汎用性の高い言語教育法と、適切な言語能力測定尺度を開発し、日本及びアジア諸国、さらに欧米諸国での外国語教育に還元し、言語教育の改善に向け明確な指針を与えることができるであろうとの展望をもっている。

(6) 本報告書の出発点になった3年前の日本の言語教育を取り巻く環境は、現在急速に変わってきている。言語教育に対する批判が多方面から表面に浮上ってきて、成績評価の国際化に伴い教育の質保証と厳正化が社会的責任とされる。通言語的かつ透明性の高い言語能力到達度評価尺度のモデルの模索と設定実験、さらに、高等教育レベルに加え中等教育及び生涯教育や非公式教育サービスなど現代社会のニーズにも対応した多言語社会における言語教育方法と評価法を開発してゆくことも視野に入れ、本研究成果をもととした次の研究は広く社会的に還元することが望ましいと考える。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 34 件)

① 栞田清、複言語主義の理念と大学英語教育—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)導入

のあり方を考える—、JACET 第 50 回記念国際大会予稿集、査読有、2011、152

② 押田清、オーストラリアの言語教育政策—北部準州における先住民への二言語教育の事例を中心に—、日豪 NZ 教育文化学会『日豪 NZ 教育文化学会紀要』、査読無、9 号、2012、54-64

③ 中澤英彦、現代ロシア語におけるヴォイスについて—受動表現を中心に—、東京外国語大学語学研究所論集、査読有、17 号、2012、35-50

④ 山崎吉朗、多言語 e ラーニングの普及と有効性検証—英語以外の外国語教育の推進をめざして—、e-Learning 教育、査読有、6 号、2012、57-67

⑤ 川村三喜男、オランダ語中期学習者における節結合：等位接続詞で始まる発話における V2 適用に関して、外国語教育研究、査読有、14 号、2011、67-80

⑥ 富盛伸夫、スイス・ロマンシュ語における言語接触の諸問題—いわゆる「V/2 語順」について、ロマンス語研究、査読有、Vol.42、2010、21-30

⑦ 根岸雅史、CEFR-J 開発の経緯、ARCLE REVIEW、査読有、5 号、2011、38-52

⑧ 黒澤直俊、ポルトガル語教育における発音指導、外国語教育研究、査読無、13 号、2010、115-121

⑨ 矢頭典枝、*English, French or Both? –Electronic Communication of Bilingual Federal Public Servants in Canada*、『コーパスに基づく言語学教育研究報告 5』東京外国語大学グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」、査読有、2010、243-260

⑩ 富盛伸夫、ボローニャ・プロセスからの示唆と言語教育改革の課題、「多言語多文化共生社会に立脚したウェブ言語教材における言語能力記述モデルの研究」成果報告論文集、査読無、2009、2-15

⑪ 富盛伸夫、ヨーロッパ連合(EU)における高等教育改編と言語教育政策の問題点について、外国語教育研究、査読無、12 号、2009、101-110

⑫ 根岸雅史、自然言語コーパスに基づく学習教材作成のための基礎的研究：英語リスニング・テキストの CEFR レベルの決定要因とそれに基づくレベル推定の可能性、コーパスに基づく言語学教育研究報告 3 「フィールド調査、言語コーパス、言語情報学」、査読無、1 巻、2009、195-210

⑬ 黒澤直俊、ポルトガル語を巡る言語状況とポルトガル語能力検定試験、「多言語多文化共生社会に立脚したウェブ言語教材における言語能力記述モデルの研究」成果報告論文、査読無、2009、213-248

⑭ 矢頭典枝、*Language Choice of Bilingual Federal Public Servants in Canada-With an Emphasis on their Perception of Passive Bilingualism*、*Studies in Corpus-based Linguistics and Language Education*、査読無、1

巻、2009、201-222

〔学会発表〕(計 48 件)

① 根岸雅史、「日本の英語教育における Can-Do リストの作成：CEFR の到達目標を踏まえて」、英語授業研究会関西支部第 23 回秋季研究大会、2011 年 11 月 20 日、大阪商業大学(大阪府)

② 山崎吉朗、「情報機器活用を目的とした多人数授業の授業設計」、日本教育工学会、2011 年 9 月 19 日、首都大学東京(東京都)

③ 押田清、「複言語主義の理念と大学英語教育—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)導入のあり方を考える—」、大学英語教育学会第 50 回記念国際大会、2011 年 9 月 2 日、西南学院大学(福岡県)

④ 山崎吉朗、「フランス語教育の現状と展望—アンケート調査結果に基づいて—」、外国語教育学会、2011 年 11 月 12 日、東京学芸大学(東京都)

⑤ Mikio Kawamura、*L1/L2 Transfer to L3 in the Production of the Dutch Reason-Result Expressions by Japanese Learners*、Seventh International Conference on Third Language Acquisition and Multilingualism、2011 年 9 月 16 日、University of Warsaw(ポーランド)

⑥ 川村三喜男、「L3 としてのオランダ語における結果—原因表現習得と L2 英語の習熟度との関連」、外国語教育学会、2011 年 11 月 12 日、東京学芸大学(東京都)

⑦ 根岸雅史、村野井仁、投野由紀夫、高田智子、「CEFR を英語教育評価の枠組みとして考える」、全国英語教育学会大阪大会、2010 年 8 月 8 日、関西大学(大阪府)

⑧ Masashi Negishi、*The development of the CEFR-J: Where we are, where we are going*、WoLSEC International Symposium 2011(招待講演)、2011 年 3 月 2 日、東京外国語大学(東京都)

⑨ Takashi Narita、*Zu unterschiedlichen Ausdrucksweisen im Deutschen und Japanischen—anhand von Belegen aus literarischen Texten und deren Übersetzungen—*、Internationales Symposium: Literaturwissenschaft und Fremdkulturhermeneutik(招待講演)、2010 年 6 月 4 日、淡江大学(台湾)

⑩ 山崎吉朗、「中等教育における語学教育とヨーロッパ言語共通参照枠」、日本フランス語教育学会秋季大会、2010 年 11 月 7 日、京都大学(京都府)

⑪ 山崎吉朗、「高等教育、中等教育における語学教育と CEFR」、外国語教育学会全国大会、2010 年 11 月 14 日、東京外国語大学(東京都)

⑫ 矢頭典枝、*Language Policy and the Production of E-mails: a case study at Canadian Government Institutions*、GCOE プロ

グラム：コーパスに基づく言語学教育研究拠点/  
世界の「言語・文化・地域」理解のための最適  
化プログラム、2009年10月15日、東京外国語大  
学語学研究所（東京都）

〔図書〕（計 35 件）

①根岸雅史、『EUおよび日本の高等教育にお  
ける外国語教育政策と言語能力評価システムの  
総合的研究 研究プロジェクト報告書』編集委員会  
編、東京外国語大学、「英語のCEFR参照レベル  
記述のための2つのアプローチ：Core

InventoryとEnglish Profile Programme」、平成2  
1-23年度科学研究費補助金研究基盤研究(B)研  
究プロジェクト報告書『EUおよび日本の高等  
教育における外国語教育政策と言語能力評価シ  
ステムの総合的研究』、2012、200 (23-30)

②根岸雅史、東京外国語大学 世界言語社会  
教育センター (WoLSEC)、The development of the  
CEFR-J: Where we are, where we are going、東京  
外国語大学 (WoLSEC) 国際シンポジウム報告  
集 2011『高等教育における外国語教育の新たな  
展望 -CEFR の応用可能性をめぐる-』、  
2012、177 (11-22)

③成田節、『EU および日本の高等教育にお  
ける外国語教育政策と言語能力評価システムの  
総合的研究 研究プロジェクト報告書』編集委員会  
編、東京外国語大学、「ドイツの大学における外国  
語教育のレベル設定と評価基準」、平成 21-23  
年度科学研究費補助金研究基盤研究(B)研究プロ  
ジェクト報告書『EU および日本の高等教育にお  
ける外国語教育政策と言語能力評価システムの  
総合的研究』、2012、200 (53-62)

④Kiyoshi HAIDA、東京外国語大学 世界言語  
社会教育センター (WoLSEC)、The Overview of  
the Symposium: Is It Possible to Apply CEFR to  
our Language Teaching?、東京外国語大学  
(WoLSEC) 国際シンポジウム報告集 2011『高  
等教育における外国語教育の新たな展望 -  
CEFR の応用可能性をめぐる-』、2012、177  
(173-179)

⑤梶田清、『EU および日本の高等教育にお  
ける外国語教育政策と言語能力評価システムの  
総合的研究 研究プロジェクト報告書』編集委員会  
編、東京外国語大学、「日本の大学言語教育にお  
けるCEFRの受容 -現状・課題・展望-」、平成 21-23  
年度科学研究費補助金研究基盤研究(B)研究プロ  
ジェクト報告書『EU および日本の高等教育にお  
ける外国語教育政策と言語能力評価システ  
ムの総合的研究』、2012、200 (93-103)

⑥中澤英彦、『EU および日本の高等教育にお  
ける外国語教育政策と言語能力評価システムの  
総合的研究 研究プロジェクト報告書』編集委員会  
編、東京外国語大学、「ロシア語検定試験につ  
いて」、平成 21-23 年度科学研究費補助金研究  
基盤研究(B)研究プロジェクト報告書『EU およ  
び日本の高等教育における外国語教育政策と言  
語能力評価システムの総合的研究』、2012、200

(149-169)

⑦矢頭典枝、『EU および日本の高等教育にお  
ける外国語教育政策と言語能力評価システ  
ムの総合的研究 研究プロジェクト報告書』  
編集委員会編、東京外国語大学、「カナダの  
二言語併用社会と CEFR 導入状況について  
□—本科研プロジェクトによる調査から—」、  
平成 21-23 年度科学研究費補助金研究基盤研  
究(B)研究プロジェクト報告書『EU および日  
本の高等教育における外国語教育政策と言  
語能力評価システムの総合的研究』、2012、  
200 (31-52)

⑧富盛伸夫、『EU および日本の高等教育にお  
ける外国語教育政策と言語能力評価システ  
ムの総合的研究 研究プロジェクト報告書』  
編集委員会編、東京外国語大学、「EU およ  
び日本の高等教育における外国語教育政策  
と言語能力□評価システムの総合的研究」の  
目標、意義および成果と展望」、平成 21-23  
年度科学研究費補助金研究基盤研究(B)研究  
プロジェクト報告書『EU および日本の高等  
教育における外国語教育2政策と言語能力評  
価システムの総合的研究』、2012、200  
(187-199)

⑨富盛伸夫、『EU および日本の高等教育にお  
ける外国語教育政策と言語能力評価システ  
ムの総合的研究 研究プロジェクト報告書』  
編集委員会編、東京外国語大学、「フランス  
語能力検定試験 (DELF / DALF, TCF, DAPF)  
と日本におけるフランス語教育」、平成 21-23  
年度科学研究費補助金研究基盤研究(B)研究  
プロジェクト報告書『EU および日本の高等  
教育における外国語教育政策と言語能力評  
価システムの総合的研究』、2012、200  
(171-186)

⑩山本真司、『EU および日本の高等教育にお  
ける外国語教育政策と言語能力評価システ  
ムの総合的研究 研究プロジェクト報告書』  
編集委員会編、東京外国語大学、「CEFR 準拠  
による言語能力評価：□イタリア語教育の現  
場における運用例と問題について」、平成  
21-23 年度科学研究費補助金研究基盤研究(B)  
研究プロジェクト報告書『EU および日本の  
高等教育における外国語教育政策と言語能  
力評価システムの総合的研究』、2012、200  
(63-74)

⑪浦田和幸、『EU および日本の高等教育にお  
ける外国語教育政策と言語能力評価システ  
ムの総合的研究 研究プロジェクト報告書』  
編集委員会編、東京外国語大学、「英国  
University College London の語学センター□  
—夜間コース報告記—」、平成 21-23 年度科  
学研究費補助金研究基盤研究(B)研究プロ  
ジェクト報告書『EU および日本の高等教育に  
おける外国語教育政策と言語能力評価シ  
ステムの総合的研究』、2012、200 (117-126)

⑫川上茂信、『EU および日本の高等教育にお

ける外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究 研究プロジェクト報告書』編集委員会編、東京外国語大学、「スペインの外国語教育と日本のスペイン語能力試験」、平成 21-23 年度科学研究費補助金研究基盤研究(B)研究プロジェクト報告書『EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究』、2012、200 (127-135)

⑬黒澤直俊、『EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究 研究プロジェクト報告書』編集委員会編、東京外国語大学、「ポルトガル語能力検定試験とアストゥリアス語の言語能力認定」、平成 21-23 年度科学研究費補助金研究基盤研究(B)研究プロジェクト報告書『EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究』、2012、200 (137-148)

⑭山崎吉朗、『EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究 研究プロジェクト報告書』編集委員会編、東京外国語大学、「フランスでの日本語教育と CEFR 及び先進事例(大阪大学外国語学部)」、平成 21-23 年度科学研究費補助金研究基盤研究(B)研究プロジェクト報告書『EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究』、2012、200 (75-91)

⑮川村三喜男、『EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究 研究プロジェクト報告書』編集委員会編、東京外国語大学、「ベルギー・フランドルの高等教育機関における外国語教育の現状：□KUL 人文学部および同大学学部間現代語施設を中心に」、平成 21-23 年度科学研究費補助金研究基盤研究(B)研究プロジェクト報告書『EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究』、2012、200 (1-11)

⑯黒澤直俊、くろしお出版、世界の言語政策 第 3 集(担当: 第 10 章 ブラジルの言語政策)、2010、264 (211-222)

[その他]

[http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/EU\\_kaken/index.html](http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/EU_kaken/index.html)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

富盛 伸夫 (TOMIMORI NOBUO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：50122643

### (2) 研究分担者

浦田 和幸 (URATA KAZUYUKI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：50168762

根岸 雅史 (NEGHISHI MASASHI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：50189362

川口 裕司 (KAWAGUCHI YUJI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：20204703

黒澤 直俊 (KUROSAWA NAOTOSHI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：80195586

中澤 英彦 (NAKAZAWA HIDEHIKO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：60092459

成田 節 (NARITA TAKASHI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：50180542

山本 真司 (YAMAMOTO SHINJI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：50251559

川上 茂信 (KAWAKAMI SHIGENOBU)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：40214598

拝田 清 (HAIDA KIYOSHI)

東京外国語大学・世界言語社会教育センター・特任講師

研究者番号：00597718

矢頭 典枝 (YAZU NORIE)

神田外語大学・外国語学部・講師

研究者番号：10512379